

2018年6月5日 六土

1. CSR活動

本業との関わりが深い、戦略的な CSR 活動です。トップダウンやボトムアップではなく、ミドルアウトという形で、中間管理職の立場から社内に発信・浸透させていることが特徴です。当事者目線で考えられているため、従業員に寄り添った内容となっています。従業員への取り組みは、顧客や取引先、地域等の重要なステークホルダーの利益に、確実に結びついています。

2. 手厚い従業員教育

従業員教育の中でも、特に資格取得の推進に力を入れています。資格試験のための勉強会を開催したり、外部講習の費用を補助したりしています。資格取得によって従業員の能力が向上し、よりレベルの高い工事・施工ができるようになります。それによって顧客満足度が上がり、次の仕事を依頼されることは、経営的に大きな意味があります。質の高い建設は、地域の満足度向上にもつながります。

3. ワークライフバランスの実現

① スペシャリストのゼネラリスト

中小企業でありながら、ジョブローテーションを実施することで、スペシャリストのゼネラリストを育成しています。ワークライフバランスを実現するため、ある特定の従業員がいないと仕事ができない、といった状況が起こらないようにしているのです。

② テレワーク

従業員が仕事と介護等を両立できるように、また顧客に迷惑をかけないように、という思いからテレワークが導入されました。定期的に従業員との面談を設け、報告と実態の調整をしています。従業員の立場によって、与える権限を変えています。特別な端末を使用して仕事をするため、情報セキュリティの面でも心配はありません。これらの細やかな工夫が、テレワークの実践には重要です。経営戦略として行われており、余計なコストがかかることはなく、むしろコストが削減されています。働きやすい環境を提供することで、雇用が維持され、従業員の成長が促されて、人財という大切な経営資源を確保することができます。テレワーク活用の実績が認められ、錚々たる大企業とともに、総務省の平成28年度テレワーク先駆者百選に選ばれました。

③ 採用活動への影響

ワークライフバランスの取り組みが評価され、全国各地で行われるテレワークに関する講演会等に招待されるようになりました。働きやすさを実現する先進的な企業としての知名度が上がり、従業員の募集をかけると応募者が殺到するようになりました。採用活動にコストがかからず、全国から優秀な人材が集まるという目に見える効果が生まれています。

4. 安全大会=CSR 報告会

毎年実施されている7月の全国安全週間に先立ち、準備期間の6月に安全大会を開催しています。安全大会では、取引先や、従業員の家族を含めた関係者を広く招待し、1年間の工事を記録した動画の公開や、会社の取り組み状況の報告、表彰、講演等が行われます。ステークホルダーに向けてのCSR報告会としての役割を兼ねています。報告・交流の場を設けることで、会社とその取り組みについて深く理解していただき、関係性を強められることが期待できます。

CSR 横浜

YOKOHAMA Corporate Social Responsibility

<https://www.csr-yokohama.net>